

浮間地区教育環境整備協議会「中間のまとめ」

1. 緊急を要する施設整備

浮間地区は、人口増に伴って児童生徒数が増加している。特に西浮間小学校では、児童数の急増により日常的な教育活動においても支障をきたしかねない状況が生じつつある。今年度、プレハブ校舎の設置工事が進められており、これによって、生活科室と普通教室1室が確保されるが、数年後にはさらに普通教室の不足が推測されており、校舎の整備が緊急を要する課題となっている。

当協議会の目的は、浮間地区全体の教育環境の向上にあり、3校すべての施設整備を望むものであるが、中でも緊急課題である西浮間小学校については、校舎改築方針が早期に示されることを強く願っている。

改築については、1校単独で行う場合と、浮間中学校と併せて行う場合と想定した。いずれの方法であっても、方針が決定次第、地域や保護者等関係者の希望要望を設計に取り入れていくことを望みたい。

(1) 西浮間小学校を単独で改築する場合

1. まず、西浮間小学校校舎を全面的に改築することが望ましい。普通教室が不足すること、多様な学習の展開が困難であること、建築後45年を経ており老朽化が進んでいることが大きな理由である。
改築工事にあたっては、十分な広さの校庭が確保できるよう設計上の工夫に努めるとともに、騒音や粉塵、工事車両の安全確保の面から、浮間少年運動広場を利活用した仮移転なども検討すべきである。
2. 次に、浮間中学校では未施行である耐震補強工事の実施にあわせて、新しい教育に対応できる教育空間を確保していく。併せて、将来の生徒数増に対応した施設整備を検討すべきである。
3. さらに、施設格差を緩和させるとともに浮間地区全体の教育環境向上のために、西浮間小学校の計画内容に準じた施設整備を、浮間小学校に実施すべきである。

(2) 西浮間小学校と浮間中学校とを合築する場合

敷地を有効に活用するため、隣接する西浮間小学校と浮間中学校との合築が考えられる。その際も、仮移転を検討するなど子どもたちへの影響を最小限にとどめるべきである。

なお、西浮間小学校、浮間中学校いずれも、現在地とは異なる場所への移設という考え方は採らないこととした。

2. その他の教育環境整備

浮間の子どもたちを地域で守り健やかに育てるための課題と方策について検討した。

(1) 地域と学校の連携について

浮間地区では、複数のPTAが一体となって「こどもひまわり110番」や巡回パトロールなどの取り組みを行ってきた。学校PTAによるこれらの活動を大きく広げ、保護者だけではなく地域の目で子どもたちを見守っていくには、町自治会、青少年地区委員会などによる協力と連携が不可欠である。こうした地域団体は、子どもたちの事件事故を防止する活動をぜひバックアップしてほしい。

そのためにも、子供たちの健全育成に関わる行事などについては、PTAと地域団体が常に連絡を保ち、スケジュールを調整するなどの努力と工夫が必要である。

また、「学校間連携」「地域とのきずな」という視点から、学校ファミリーによる新たな活動が提案されることを望む。

(2) 公共施設について

子どもたちに密接に関わる施設として、地区図書館と児童館が挙げられる。浮間地域では、両館とも地域全体のやや東北部にあり、地域的に偏在していると言える。西浮間小学校学区内の児童、とくに低学年児童にとっては、かなりの距離があり、実際に利用率も低い。

地区図書館の蔵書等、内容の充実とともに、館の所在をわかりやすく表示するなど利用しやすい環境整備の工夫を望みたい。

さらに、こうした施設の配置については、児童生徒が利用しやすい場所への移設を要望したい。